

素粒子メダルのあり方に関する議論のまとめ

野海俊文

東島先生のメッセージを紹介するにあたり、素粒子メダルのあり方に関する議論を簡単にまとめます。

背景

2011年頃から素粒子メダルのあり方に関する議論が素粒子論委員会、懇談会で度々出てきています。議論の主なポイントは「創設当初と現在で賞の役割が変わってきているのではないか」という点で、特に創設の趣旨

これまで素粒子論グループ自身で選ぶ賞が無かったために、歴史的に高い評価が定着している仕事でも、様々の理由で賞という形では認められていない業績が多くあります。21世紀に入ろうとする今、先輩達の歴史的業績を素粒子論グループとしてきちんと認めはじめをつける事が、次世代の独創的な研究を評価支援するうえで非常に大切だと考えます。最初の数年間、主にこれらの先輩達の業績を顕彰することにより、「素粒子メダル」自身の定義付けができあがるでしょう。

にある「最初の数年間の役割」は既に果たされたのではないかというものでした。2012年の時点では賞のあり方自体に踏み込んだ提言はなされていないものの、規約改訂により「候補者またはその共著者が既に他の賞を受賞している場合」にも受賞可能になるなど、受賞資格を広げる動きが進んできました。

2017年秋の学会～

2014年を最後に素粒子メダルの受賞者があらわれない状態が続いていたため、2017年に素粒子メダルのあり方に関する議論が再燃しました。2017年秋の学会における素粒子論懇談会で「素粒子メダルの今後の在り方について、鈴木久男さんを中心に議論を進めて頂き、2018年秋学会の懇談会をめぐりに決定する。18回素粒子メダルは現状通り実施する。」という方針が決まり、先の春の学会で素粒子メダル検討委員会（鈴木久男さん、山口昌弘さん、酒井忠勝さん）か

らの提言がなされました。

提言から一部抜粋・要約：

現状の大きな理由として、素粒子メダルの趣旨にある記述「これまで素粒子論グループ自身で選ぶ賞が無かったために、歴史的に高い評価が定着している仕事でも、様々の理由で賞という形では認められていない業績が多くあります」という部分にとらわれすぎていると考えられる。しかし、規約の受賞資格ではこのような制限は設けられていないので、新たな規約改正をするのではなく、受賞資格等を確認することを提案する。

この提言を受けて「他の賞の受賞歴や年齢によって受賞が制限されないこと」が素粒子論懇談会で改めて確認されました。また、この時点で第18回素粒子メダルへの推薦がなかったため、再募集をすることが決まりました。今後のあり方については再募集の仕方も含め、素粒子論委員会 ML での継続審議に持ち越しました。

2018年春の学会～

素粒子論委員会 ML での議論の結果、「現在定着している賞のイメージは創設当初の役割に他ならず、賞を今後育んでいく上でこのイメージにとらわれる必要はない」ということを伝えるため、以下のメッセージを再募集メールの冒頭に加えることが決まりました。

再募集メールから抜粋：

「様々の理由で賞という形では認められていない先輩達の歴史的業績を、素粒子論グループとしてきちんと認めはじめをつける（創設要旨より抜粋・要約）」という創設当初の役割もこれまでに果たし、2012年の規約改訂では「候補者またはその共著者が既に他の賞を受賞している場合」にも受賞可能になりました。研究者自ら選んだ選考委員による、公正な評価に基づく「素粒子メダル」を今後さらに育てていくことは、次世代の独創的研究を評価支援する上で非常に大切であると考えます。

その後、東島先生の2018年度素粒子メダル受賞が決定しました。

2018 年秋の学会～

2018 年秋学会の素粒子論懇談会において東島先生の授賞式が行われました。受賞スピーチにて東島先生より以下のような温かいメッセージをいただきました。

素粒子論委員会発足後の最初の事業として、若手素粒子論研究者を応援するために素粒子メダルを創設することになりました。誰も知らない吹けば飛ぶような素粒子メダルに箔をつけるために、当面、立派な業績を上げられた先輩達に貰っていただきましたが、あくまでも当面であり本当はもっと若い方々を応援するのが目的でした。当初、若い人を対象にした素粒子メダル奨励賞は、若い人の差別化に繋がる恐れがあるということで、ペンディングにして素粒子メダルと功労賞でスタートしました。暫くして素粒子メダル奨励賞が認められましたので、「当面の間」は終了したと考えて良いと思います。今後は、「当面の間」を外すとともに 40 代、50 代の方を対象にする素粒子メダルを、20 台、30 代を対象にした素粒子メダル奨励賞とともに、多くの方が受賞するようになって欲しいと願っています。

当時会場にいた方々も東島先生のメッセージに共感されていたと聞いています。

素粒子論グループのみなさんとシェアすると共に、素粒子論委員会としてのメッセージを発信すること決定し、この度のメールを送ることにいたしました。

今回のメッセージ自体は素粒子メダル選考の方針を左右するものではありませんが、これまでのコミュニティ内の議論と賞を創設された先輩方の意思をまとめたものとなっています。素粒子メダル創設の経緯が物語っているように、素粒子メダルの姿は素粒子論グループのみなさんの思いに従って定義されていきます。次回以降も素粒子メダルへの積極的な推薦をよろしく願いいたします。